

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第112号

nanae historical  
museum collection



## ななえ古写真物語

VOL. 112

### 技術を求め

七重官園製煉場

明治10年頃

本町地区

説明もなく、どこだと問うても、町内で撮影されたものだと答える町民は少ないと思う。これまで、何度も述べてきたが、当町は明治期に開拓使による試験農場「七重官園」が設置された場所。この写真に写る変哲もない建物が、実は重要な役割を担っていたのである。

建物は「製煉（せいれん）場」と呼ばれ、農業生産物から加工をし、製品化するため実に多岐にわたった試作を行った場所であった。現在の本町交番付近にあったにもかかわらず、周囲の景色が大きく異なるため、比較して想像することは難しいだろう。

明治6年に畜産物や農産物の加工を目的として建設され、粉乳やバターを試験的に製作。明治10年には甜菜糖（ビート）を試作し、およそ九分の結晶糖を完成させた。さらに試験を拡充するため明治12年に新築し、ワインやブランデーを製造したり、トウモロコシ焼酎やグズベリー酒・カーレンツ酒、香水・山葵（ワサビ）液を試作。ほかにも馬鈴薯で澱粉や焼酎を試験的に製造したという。

また、チーズやハム・鮭燻製・羊肉缶詰も製造したが、明治20年には建物も製煉機械も払い下げとなりその役割を終えた。

こういった試作実験の種類や方法などについては、七飯町指定文化財のひとつである「迫田家文書」の中、「製煉書」や「製煉雑誌」などに詳細が記されているのだが、これらを併せ読むと、七重官園で行われていたことが、当時に行ってみると、いかに最先端の技術だったのかがわかる。

ただの素朴な曲がり家に見える建物の中で、缶詰やブランデーを製造するなど、おおよそ外からはわからない苦労があっただけで、製品が普及していくのだが、まだ日本が西洋文化を取り入れたばかりの時期だったため、人々の購入意欲があまり向上せず、断念した製品もあったという。

しかし、ごくわずかな期間ではあったが、この製煉場の役割は、明治期の政策のひとつであった殖産興業の一翼を担うものだったと考えている。こういった施設の存在が、七重官園の役割が単に西洋式農業の普及にとどまらず、新たな産業へと繋げるものであったことを思うと、職員たちは、新たな技術を求め、情熱をもって仕事に臨んでいたのではないかと想像する。どうやら、私達は歴史に学ぶことが多いようである。

## 1日

夜の博物館最終夜。テーマは「精神を押し量る」。難しいこの題材を受講者の皆さんと対話をしながら進めて行きます。まずは縄文時代と旧石器時代の4つの違いについて。そこには話を進めるのに重要なポイントがありました。文字をもたなかった時代の暮らしの痕跡からは様々なことが想像され、一体何に使うの？や私ならこう使う。そんな意見が飛び交い、新たな疑問へと導いていきました。ヒトはモノを通して、過去と現在を比較し、「知」を深めるということを感じた夜でした。

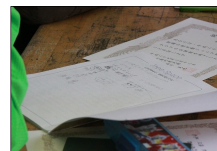


## 12日

冬の探鳥会を開催しました。西大沼地区で、見つめられた野鳥は15種ほどでしたが、シロハラゴジュウカラ、シマエナガなど北海道ならではの鳥や、雪原に残る動物の足跡からどんなことが推測できるかなど、興味深いお話しも聞くことができました。散歩から気軽に始められる野鳥観察。鳥のさえずりが聞こえる道に、途中駒ヶ岳の雄姿や春に向かう植物も手伝い、七飯の自然を満喫できた時間となりました。

## 18日

一周り大きく成長した子どもたちを感じられる日。ジュニア探検クラブの閉講式です。午前には文集づくり。慣れない道具と格闘する時間は例年ハラハラしますが、午後にはひとりひとり終了証をもらう姿と一年前の姿を比べ、顔つきや少し大人びた言葉を話す子ども達の今後にエールを送りたくなる日です。興味のなかったプログラム、楽しかったプログラム、様々な経験を通して得ることは、いつか判断をするときに、きっと役に立ちます。



### 編集後記 ~tawagoto~

ウグイスの初鳴きを耳にする。木々の芽にうっすらと色付きを感じる。時折、寒が戻るかのような雪の日もあったが、確実に季節は移ろいでいる。そんな4月を過ごしている。

そう、昨日と同じ景色は無く、ゆらぐ変化の中で、私たちは暮らしている。そんなことは分かっているのだが、時間に余裕がなく、それらを見過ごす毎日を送っていることを猛省する。年度始めは仕方ないという言い訳とともに。（やまだひさし）

## 5月の予定

日	曜日	予定
1	月	新収蔵資料展
2	火	
3	水	憲法記念日
4	木	みどりの日
5	金	こどもの日
6	土	
7	日	春の探鳥会
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	ジュニア探検クラブ
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

5月の休館日はありません

### テラリウム

16世紀の大航海時代に植物を運ぶために発明されたテラリウム。時を経て今はこんな形で活用されています。



# Richart

~ピチャリ~

第112号

平成29年4月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp